

患者様一人ひとりに合わせた栄養管理に、真摯に取り組む

栄養部 大久保 郁子 部長



体脂肪量や筋肉量を測定する体組成測定器

栄養部では、入院患者様の食事提供、栄養食事指導、栄養療法外来、栄養サポートチーム (NST) で、入院から外来まで患者様のトータルな栄養管理を行っています。

入院患者様の食事提供と栄養食事指導では、患者様の1日も早い快復と社会復帰を願い、安全で栄養管理の行き届いた満足される給食を医療の一環として提供。入院患者様は500名以上いらっしゃいますが、個々に栄養状態や健康状態が異なり、食事は一人ひとり違うと考えて栄養管理を行っています。吟味した食

材を使うのはもちろん、温かいものは温かいまま、食器や盛り付けは目で楽しめることも大切です。一般食は2種類用意し、患者様に選んでいただくことができます。当院の病院食は他の病院からも高く評価され、患者様のアンケートでも好評です。

栄養サポートチーム (NST) は、医師、管理栄養士、薬剤師、看護師を中心に、栄養状態を専門的に評価し、改善策を検討します。当院のNST活動は平成16年4月、全科的に開始されました。対象となるのは、何らかの疾病や病状により低栄養をきたした患者様や、手術処置後に低栄養をきたすおそれがある患者様、また生活習慣病や炎症性腸疾患等といった長期にわたる栄養コントロールが必要とされる患者様です。疾患の治療や体力回復に大きな影響を及ぼす栄養状態を、チームでサポートしています。

栄養療法外来は、国立大学病院では初めての試み。



PROFILE

おおくぼいくこ◎1974年神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程科卒業。1999年愛媛大学附属病院へ。2003年栄養部副部長、2006年栄養部部长就任。家に帰ると、時間と仕事を忘れ、愛犬ラブラドルのマックスと遊ぶことが楽しみ。

低栄養、低体重の方のみならず、過栄養や肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病や集中的な栄養管理が必要な疾患をお持ちの患者様に、医師や管理栄養士が中心となって、身体の異常と食生活や運動を含めた生活環境を総合的に分析し、計画的に治療を実施する専門外来です。まず診察、心電図、動脈硬化、内臓脂肪、血液検査のチェックをします。体組成測定器で体脂肪量、体蛋白量、筋肉量、水分バランスなどを測定。間接カロリーメーターで体のエネルギー消費量を測定し、基礎代謝での脂肪燃焼度を詳しく調べます。栄養調査では摂取したエネルギー量、蛋白質量、脂肪量などを計算。日常でもライフコーダー (万歩計) をつけていただき、普段の生活や運動によって消費されたエネルギー量を測定します。これらのデータから個人々の食生活、運動、生活習慣での問題点、改善点を提示するカンファレンスを2週間毎に実施し、3か月を区切りに効果を判定します。これまでも多くの方々の良い効果が出ており、喜びの声を沢山いただいております。



基礎代謝を測定する間接カロリーメーター